

## 特集：卒業

## ご卒業にあたり

濱 健夫（筑波大学 生命環境学群生物学類長）

「卒業おめでとうございます」と言う言葉を飲み込んでしまふほどの災害が日本を襲いました。卒業研究発表会も終えて、卒業式を待ち、そして4月からの新しい生活を思っていた時の出来事だったろうと思います。大学会館での卒業式を待ち望んでいた方も多くいらっしゃっただろうと思いますが、学類長室での卒業証書授与となりました。皆さん揃っての授与式とはなりませんでしたが、いつまでも記憶に残る卒業になるでしょう。

大学の4年間、どうでしたか。楽しかったでしょうか、それとも苦しかったですか。精一杯取り組みましたか、それともまだまだできたのという後悔の方が強いでしょうか。おそらく、一言で片付けられるものではなく、多くの人は、大学生活を色々な思いをもって振り返っているのではないのでしょうか。安定した精神状態で、良い成果をえられている時もあれば、追い詰められた気持ちで過ごさなければならない時もあったと思います。そんな時は、いつも安定した状態でいられたら、と考えるでしょう。でも、大事なのは、そのような状態の時に、自分を失うことなく、どれだけ先を見つめて努力できるかだろうと思います。この努力は、必ず自分の成長を実感できる時をもたらしてくれます。

卒業してから、筑波大学の大学院へ進学する方、他大学の大学院へ進学する方、社会に出る方、色々な生活のスタートとなります。特に、筑波大学を離れる方にとっては、これまでの人生の中で、皆さんが確立してきた価値観とは違った世界に飛び込むこととなります。でも、それを恐れず、新しい成長へのチャンスと考えて、更に先をめざして下さい。

大学生活を通して、色々な人たちと知り合ったと思います。学類の同期生、サークルの仲間、研究室の先輩、教員と人とのつながりは、高校時代と比べて大きく広がったでしょう。大学時代に知り合った人たちとは、おそらくこれから長いおつきあいになります。良いところ、悪いところを知り尽くした親しい友人とは、これからの人生のステップ、ステップで、悩みを聞いてもらい、またサポートをすることが多々あると思います。また、卒研の指導教員とは、質の高い研究をめざして、切磋琢磨することが続きます。

私事になりますが、最近35年ぶりに菅平高原実験センターを訪ねました。大学卒業を前にして、同期生の皆と行ったのが最後でした。本当に久しぶりに訪ねたセンターで、真っ先に頭に浮かんだのは、その時に一緒に出かけた同期生達の顔と、卒業を間近に控えた皆との期待と不安の入り交じった会話でした。35年間のカレンダーを一気に過去に戻すような、不思議な感覚でした。今では大学時代の仲間を意識することは少ないですが、自分の今が、大学の仲間からも影響を受けていることを感じます。このような人間関係を、いつまでも大切にしたいと思います。

皆さんの健康と、そして活躍を祈っています。

Contributed by Takeo Hama, Received September 12, 2011.